

ネットは「凶器」か最高のツールか？

4月30日(木)6限に、1学年で「情報モラル教室」を実施しました。これから本格的にスマホを使用していく中で、相手を傷つけず、犯罪に巻き込まれず、トラブルでいじめにつながらないように、この講義を受けたのをきっかけに常に、「自分の頭で考え、何がダメかを判断し、適切な使用をしていく」ことができるはず。「無知」があなたを加害者に、被害者に、依存症にします。常に“意識して”スマホと付き合う。講義を聞いて、“意識し”、自分で考えたものを、みんなの感想からピックアップしてみました。さ

あ、前南生諸君、どう行動しようか。(編集 教頭)

「便利さは危険とセット」

ネットは非常に便利だが、その裏には常にリスクがあることを、絶対に忘れてはいけない。



「ネットそのものが悪いのではなく、使い方次第で相手を傷つける凶器にも自分を助ける道具にもなる」

自分の使い方一つで、誰かを傷つける凶器にも、自分を助ける道具にもなり得る。では傷つけないように、どうする？

「匿名性・拡散性・記録性」

匿名だからこそ強い言葉を使いやすく、一度投稿すれば一気に広まり、完全には消えない「デジタルタトゥー」となる。

「ネットは見せた相手だけでは終わらない」

「自分たちだけ」という内輪の意識が、想像以上の思わぬトラブルの引き金になる。

「画面の向こうにも必ず人がいる」

顔が見えないからといって、何を書いても良いわけではない。相手の尊厳は守られるべきである。

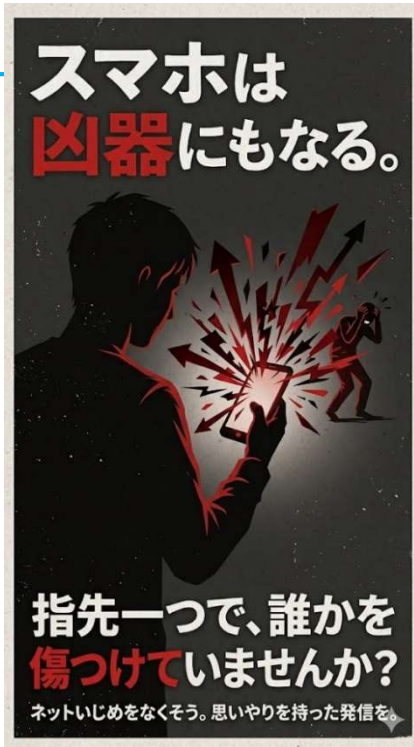


講演を受けて、今日から“考え、判断し、行動する”「私たちのルール」

～前南1年生は何に気づいたか。どう考えが変わるか。どう行動に移せるか。～

投稿前の「一呼吸」と「3つのセルフチェック」

- ① **その言葉、本人が目の前にも言える内容か？**
- ② **誰に見られても（将来の自分が見ても）問題ないか？**
- ③ **スクリーンショットを撮られて困らないか？**



肖像権の尊重と個人情報の保護

- ① **他人の写真や動画を勝手にアップしない。**
- ② **制服や自宅が特定される背景に注意**する。

「感情のまま」の発信を控える

怒りやノリで投稿せず、一度時間を置いて冷静に考える。

- ◇文字だけだと、相手がどうにでも解釈できてしまう可能性がある。
- ◇デジタルタトゥー、何年経っても“消えない”。後悔、後悔、後悔。
- ◇そのつもりはなくても、いじめの加害者、訴えられる対象にもなる。

◇ノリで相手を傷つける言葉は発しない、書き込まない。

パスコードの管理＝安易な共有は絶対に拒否！

- 親しい友人であってもパスコードは共有しない。
- 位置情報を共有しない。
- スマホを安易に貸し借りしない。

スマホは高価かつ
個人情報の宝庫

編集後記 多くの生徒が「加害者にも被害者にもなりうる」という自分事として捉えていました。ネットを「凶器」ではなく、自分の夢や趣味を広げる「便利で最高のツール」として使いこなせる高校生を目指しましょう！

【校長より】 「友に送ったメールの返事を待つ2時間 5日は待てた手紙の頃は」（NHK 短歌入選昨）
俵万智さん著作の「生きる言葉」で、こんな作品が紹介されていた。便利になった反面、待つことが苦手になったということで紹介されていた。めまぐるしい速さで情報が飛び交う昨今、人間はこの速さに対応できているのかと疑問に思う。手元の文章を送信した後に、その文章がどうなるのかとの“想像力”。自分の考えを文章で細やかなニュアンスまで正しく相手に伝えることのできる“文章表現力”。独りよがりの文章となっていないかの“確認力”。
便利な物を便利に使いこなすには、それを使いこなすだけの“力量”が求められる。その力量なくしては、便利な物が、危うい物となってしまうことがある。スマホを持っている一人として、心したいと思う。（中澤政幸）